

基礎現代文化学 情報技術演習 第一回

1 はじめに

この演習では、基礎的な情報技術を習得しながら、その背後にある情報の構造や性質について学んでいきます。具体的には、

- テーマに沿って調査・研究をおこない、講義内で発表・報告する。

ことを通じてさまざまなソフトウェアの使い方を習得し、その仮定で情報・情報技術がどのような構造・性質を持っているのか、なぜそのようになっているのか、それによって何がどうなるのか、といったことを自ら考えていきます。

1.1 演習の進め方

この演習では、みなさん自身でテーマを決め、それに従って調査・研究をおこなう練習をします。実際には以下のような手順で進めていきます。

1. 演習をおこなうグループを決める：

演習は1～数名のグループごとにテーマを決めておこなうものとします。1人で興味あるテーマを追求しても構いませんし、数名で分担しても構いません。ただしあまり大人数になると効率が悪いので、3～4名までにとどめてください。

2. テーマを選定する：

みなさんが調査・研究をおこなうテーマを決めます。後ほどいくつか例を挙げますのでその中から選んでも構いませんし、自分の興味あるテーマを選んでも構いません。ただしある程度「情報」の収集・整理・加工が必要なもの（さまざまなソフトウェアを利用できるようなもの）を選んでみてください。

3. 情報を収集する：

テーマを選定したら、それに従って情報を収集してください。図書館で文献を読む・インターネットを用いた検索・実際にアンケートや実験をおこなう、など色々な選択肢があるはずです。効率性・確実性・信憑性などを考慮しながらおこなってください。

4. 情報を処理する：

収集した情報はそれだけでは報告や発表に使えません。集めた情報を目的に添って整理・加工し、必要な形にまとめあげてください。

5. 報告・発表をおこなう

上記の手順を通して得た内容を口頭発表（スライド等を使用します）と報告書（レポート）の形にまとめてください。限られた時間での発表と、じっくり読める報告書では自ずと作り方も変わってきます。必要な事項の取捨選択、情報の伝え方の工夫などを考慮しながらおこなってください。

1.2 調査・研究テーマの例

この演習でおこなう調査・研究テーマ例をおおまかに挙げておきます。この中から選んでも、自分でテーマを作成しても構いません。なお、前期の「情報・史料学概説」(<http://www.shayashi.jp/courses/index.html>)を受講した人は、その講義内でとりあげられた内容から選択してみるのもいいでしょう。代表的なものには以下にも挙げておきます。

- コンピュータの発展と歴史
- コンピュータの構造
- 通信とネットワーク
- セキュリティ技術と認証
- プログラム言語の発展と歴史
- 情報検索技術の発展と歴史
- 情報技術と人文・社会科学

これらの内容は、演習として扱うにはかなりおおざっぱな分類となっています。実際に演習をおこなうにあたっては、これらを参考により絞り込んだ内容とすることをお勧めします。あるテーマに沿って概要をまとめるのも重要なことですが、今回の演習では狭く深く追求した方が色々と発見があるものと思います。

2 参考資料など

みなさんが情報収集や報告の作成などに使えるような Web サイトや資料を挙げておきます。

- Web 検索：<http://www.google.co.jp>, <http://www.yahoo.co.jp>
今更ですが、Web サーチエンジンの大手です。Web での情報収集はここから始めるのがいいでしょう。
- 「基礎情報処理」のサイト：<http://www.ibi.bun.kyoto-u.ac.jp/index.html>
各種ソフトウェアの扱い方などが詳しく載っています。ぜひ参考にしてください。
- Wikipedia: <http://ja.wikipedia.org/wiki/>
利用者が自由に利用・加筆・修正できる「コピーレフト」と呼ばれるフリーの百科事典です。膨大な記事を収録しており、比較的新しい情報も投稿されています。ただし、学术论文や書籍のように客観的な審査・評価を経ていないこともあり、そのまま全てを使用するには注意が必要です。
- 「レポートの書き方」(京都産業大学経済経営学会編):
本日配付します。報告書のまとめ方の参考にしてください。
(脚注の追加された Web 版) <http://www.kyoto-su.ac.jp/oda/essay1.frame.html>
- 各種ソフトウェアのヘルプページ：演習に使用するソフトウェアであれば、大抵はメーカーのホームページにマニュアルやヘルプがまとめてあります。また、そのソフトウェアのユーザ自身がまとめたものも非常に参考になるでしょう。